本途人舎会報

本の小途（こみち）

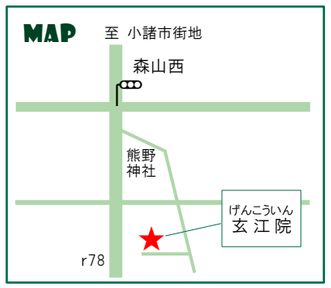
Vol.11
2022.冬号

幼い頃住んでいた家のお風呂は薪（まき）で焚いていた。家の裏にはカラマツ林があって、そこへ薪（たきぎ）を拾いに行くのは子どもの仕事だった。

松ぼっくりを踏みつけ、良い感じの木の枝を拾いながら林の山裾へ向かって下っていくと田んぼが広がり、その向こうに川が流れていた。

その川底で亀の形をした石が見つかると聞いたのは大人になってからだ。そういえば自分が高校生の頃、乙女駅の駅舎には、地域の人が設置したと思われる石の写真とそれにまつわる伝説が書かれたパネルが飾られていた。自分の住む辺りにも昔話のようなものがあるのかと驚いた記憶がある。

あの時、駅舎で電車を待っていなければ、知り得なかった地元の伝説。大人になった今、忘れ去られていく古き良き地元の物語を、今の子ども達にも伝えていきたいと思う。



＝表紙写真＝ 玄江院の龍磨石（りゅうずりいし）村人が地区内から運んできたという民話が残っている石。中央の窪みは龍が体を擦り付けた跡と言われている。（2021年12月撮影）

3つの民話　あらすじ

（ ）は地区名

『金鶏長者』（山ノ前）

都を逃れてきた貧しい公家の若者がいた。山里での暮らしにも慣れた頃、京から公家の娘が訪れ、二人は夫婦になった。

ある日、若者が山道を歩いていると目の前に金の鳥が現れた。若者は、とっさに持っていた大切な小判を鳥めがけて投げつけたが、鳥も小判も消えてしまった。

『化身した観音さま』（芝生田）

深沢川の村はずれに、木こりの与助が住んでいた。観音さまが祀ってある観音平の奥深い場所で仕事をし、昼になったので、弁当を食べることにした。すると、後ろの笹やぶの方でガサガサと物音がして、可愛い小鹿が顔をだした。そのあまりの可愛さに与助は捕まえたくなってしまい……。

『天狗の水』（井子）

井子に良作という若者がいた。ある日の朝、良作は山へコガラッパヂキ（浅間ぶどう）を取りにでかけた。夢中で摘んでいると、いつの間にか池の平のお天狗さまの池に出てしまった。この池の水は飲むなという母の言葉を思い出したが、喉の渇きに耐えられず一口、また一口と飲んでしまう。

3つの民話のお披露目をします！

今号でご紹介した「語り継ぐ小諸の民話」プロジェクトで制作した紙芝居3点の原画展を、**令和4年4月**に市立小諸図書館で行うことになりました。

また、音声も含めた完成作品のお披露目会を5月に計画し、現在内容を検討中です。

日時や詳細は、決まり次第本途人舎ホームページおよびFacebook上でご案内します。お楽しみに！

賛助会員 募集のお願い

わたしたち本途人舎は**本**と**人**、**過去**と**未来**をつなぐ活動をしています。わたしたちの活動へのご支援を募集しています。

年会費（個人）一口3,000円　（団体）一口10,000円

●銀行振込
振込先：特定非営利活動法人 本途人舎（名義名：ホントヒトシャ）
八十二銀行 小諸支店　普通　口座番号 1128420
※新規で振込にて申し込みをされる方は、お手数ですが本誌奥付のメールアドレスまでご一報下さい。

●本途人舎メンバーに直接お渡ししていただくことも可能です。

今月の元標（第1合目）ふたたび

雪散るや千曲の川音立ち来り
臼田亜浪（昭和5年作）

『佐久の文学碑』P.65
（宮沢康造 著／櫟／1995.6）

臼田亜浪は小諸市出身の俳人。故郷の自然への郷愁が感じられる句と言われており、この句が刻まれた碑は、懐古園の馬場に建てられています。

「**元標**」とは浅間山を登る人のための道しるべのことをいい、全10合で出来ていて、小諸八幡神社を起点としています。

編集後記

表紙の玄江院の龍磨石（りゅうずりいし）ですが、今回の特集にちなんで、色々な民話の本を読んでいるうちに初めて知りました。内容が気になる方は『続ふるさと佐久の民話』（大日向寛著/櫟/1995）を読んでみて下さい。（Y&K）

毎月開催している「ほんのひととき」で紹介された本をピックアップ！

リレー版　ほんのひととき

『おひさまパン』
エリサ・クレヴェン 作絵
江国香織 訳
金の星社（2003.7）

選んだ人
ペンネーム　hana さん

雪に凍えそうな森と動物たち。犬のパン屋さんが丸くて大きなおひさまパンを作りました。寒い冬の始まりにポカポカ幸せ気分にしてくれる一冊です。

好きな本を語りたい方、聞きたい方大募集！

一緒に“ほんのひととき”を過ごしませんか？
➡ 毎月 **第3 日曜日** 午後2時～4時
会場：市立小諸図書館 ボランティアルーム

NPO法人本途人舎会報　「本の小途」　2022.冬号（第11号）　2022.1.10 発行　（年4回発行／春号は2022.4月発行予定）
発　行　NPO法人 本途人舎
市立小諸図書館運営一部業務受託者
Mail　hontohitosha@honhito.com
HP　https://www.honhito.com/
表紙写真　金子
本途人舎 HON to HITO SHA

作り手インタビュー

佐藤（さとう） みきさん

①昔話らしさを出すために、輪郭線を墨汁色の絵の具で描いたところです。

②画用紙に直接描き始めたのは八月に入ってからで、一か月半ほどで完成しました。

③当時の家の形や服装などを調べることが大変でした。また、お話の中に「釜神さま」というものが登場するのですが、それが一体どのような神様なのか、どんな見た目をしているのか、調べてもなかなか出てこなくて、結局、現代の神棚を参考にして、ほとんど想像で描かせていただきました。調べるのは大変でしたが、昔の暮らしの様子を垣間見ることができて楽しかったです。

④金色の鶏がピカーッと光っているシーンがお気に入りです！黄色い絵の具を少しずつ色を変えながら重ねて、神々しさを出せたかなと思います。

高藤（たかふじ） 瑞穂（みずほ）さん

①よくある昔話の絵本などを意識して、キャラクターが昔話によく描かれる丸い線になるように目指しました。舞台が山ということだったので、キャラクターが、木々ばかりになりがちな背景と同化しないように派手な色を選びました。また背景も柔らかいイメージを保ちたかったので黒の絵の具は使わないようにしました。

②一か月程度です。

③丸っこいシンプルなキャラクターを画面上で目立たせたかったので、背景の書き込みを多くするようにしました。背景が木々ばかりだったので、数えきれない数の葉っぱを一枚一枚描くように筆を乗せていくのが大変でした。

④最後、与助が観音様にお祈りをするシーンが好きです。自分で描いたものも観音様と山の静かさが表現できたように思えて気に入っています。

菊池（きくち） 雪絵（ゆきえ）さん

①親しみやすく楽しいお話がとても気に入り、登場する人物や動植物どれ一つないがしろにしたくなくて、すべてに愛情をそそいで描きました。そうしつつ、主役を引き立てることも忘れないように努めました。

②三か月

③脚本を読み込んでいくと、主人公の良作が頭の中で勝手に歩いたり笑ったりするようになり、まるで目の前に本人を見るようでしたが、それを紙の上に写し取るのは容易ではありませんでした。また、透明水彩絵の具に初挑戦しましたが、コントロールが難しく苦心しました。

④良作が「お天狗さまの池」に近づいていく場面。
いいつけを守らないとどうなるか……。描きながらほくそ笑んでしまいました。

美馬（みま） 佳世（かよ）さん

①ピアノだけで風景や感情を表現したことです。三作品とも個性があったのでそれに合うように作曲するのがとても楽しかったです。コミカルな感じや厳かな場面は拍子や〝調〟を変えて表現しました。

②一か月半

③「びっくり」や「やっちまった感じ」などの表現が難しかったです。でも、上手くいった時の喜びはひとしおでした。

④『天狗の水』は「池の平」のシーンがお気に入りです。水面に光がキラキラと反射している様子を表しました。
『化身した観音様』は一番最後のシーンです。厳かな、救われた感じを表現できたと思います。
『金鶏長者』は鳥を追いかけるシーンです。コミカルにちょこちょこと歩いている雰囲気を出せたと思います。

プロフィール：相愛大学音楽学部作曲専攻卒業・県内で作曲活動に取り組む。●連絡先：信州新世代のアーティスト支援事業next（QR先）

①こだわったポイントは？
②制作時間
③大変だったところ
④お気に入りの場面（曲）

取り込んだ絵のサイズ調整もあわせて行いました。

❶ 脚本の制作

『むかしの話 小諸の民話』
『続 むかしの話 小諸の民話』
（小諸児童文学の会）をもとに、紙芝居用に脚本化。
全 12 場面で完結するよう構成しました。

❷ 作画打ち合せ

作画を担当された佐藤さん、高藤さん、菊池さんと打ち合わせ。スケジュールや紙芝居の仕組みなどについてお話しました。

❸ 脚本をもとに絵を制作

❹ 紙の絵をスキャンしてデジタル化

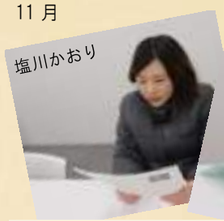
6 月

紙芝居の脚本・デジタル化担当
竹内ゆかり

原画をスキャナーで取り込み、画像データ化し紙芝居に必要な情報を入れて仕上げました。皆様のご協力で大変素晴らしい作品ができました。小諸の民話に触れ、ふるさとへの愛着が育まれることを願っています。

❺ 朗読

11 月



映像化用に朗読をレコーディング。イントネーションや“間”に気を付けながら行ないました。

映像化担当　依田彩佳

紙芝居としても楽しかった民話が、美馬さんの曲でより世界観が深まりました。ひとりでも多くの方の心に留まることを願っています。

❻ 音楽の制作を打ち合せ

音楽担当の美馬さんと打ち合わせ。
シーンごとに合うようイメージをすり合わせていきます。

11 月

❼ 作曲

一作品ずつオリジナルの音を作って頂きました。ピアノを使っての録音は、雑音が入らないよう気を使ったそうです。

❽ 映像化

12 月

パソコンのソフトを使って絵･朗読･曲をひとつの作品にまとめます。

本途人舎　代表　大林晃美

私たち本途人舎は、小諸の地に脈々と流れるたくさんの豊かで素朴な民話を、より多くのみなさんに知っていただき、子どもたちから子どもたちへと未来の小諸へ語り継がれることを願い、活動しています。

事業担当　大池和美

今回の事業では市内在住で、本途人舎に関わりのある方に作画を依頼しました。朗読は本途人舎が吹き込み、関係者みんなで作り上げた手作り感満載の作品ができあがりました。

❾ 紙芝居用に印刷

❿ 完成！

４月からスタートした制作は、様々な人の手を借りながら素敵な作品となりました！

制作した紙芝居については裏面をご覧ください